



# 新年あけましておめでとうございます

公益財団法人 日本殉職船員顕彰会



会長 三 藤 泰 工

# 潮 騷

号 49 号  
令和 2 年 1 月 1 日

公益財団法人 日本殉職船員顕彰会  
〒102-0083 東京都千代田区麹町四丁目五  
海軍センタービル  
電話 〇三・三三三・四〇六六二  
FAX 〇三・三三三・三三四・〇六八二

皆さま方におかれましては、おすこやかに新春をお迎えのことと、お慶び申し上げます。

昨年は、超大型台風の襲来が相次ぎ、各地に甚大な被害をもたらしました。

被災された皆様には、心よりお見舞い申し上げますとともに、1日も早く平穏な生活が再建されることをお祈り申し上げます。

昨年1月21日、上皇上皇后両陛下におかれましては、ご退位を目前に控えご多忙にもかかわらず、先の大戦で犠牲となった戦没船員6万余人の慰霊のため「戦没船員の碑」に、行幸啓になられご供花を賜りました。戦没・殉職船員への両陛下の御心に感謝申し上げます。

顧みますと昭和46年3月、戦没船員の慰霊と海洋永遠の平和を希求する人々の努力によって、神奈川県立観音崎公園に「戦没船員の碑」が建立されました。同年5月、第1回戦没船員追悼式が降りしきる雨の中、皇太子同妃両殿下（上皇上皇后両陛下）のご台臨を仰いで挙行されまし

た。

以来、上皇上皇后両陛下、天皇皇后両陛下、皇室の方々におかれましては「戦没船員の碑」に、お出ましになられご供花を賜っております。

本年は、戦没船員6万余人もの尊い犠牲を払った先の大戦が終結してから75年、「戦没・殉職船員追悼式」は50回目を迎える節目の年になります。

申し上げるまでもなく、当会は、志半ばで先の大戦で犠牲となられた戦没船員と、海難等で殉職された船員の慰霊、顕彰と遺族援護ならびに、海洋立国の精神を高揚し、海事思想の普及と海洋永遠の平和に寄与することを目的に活動しています。

戦争を体験しない世代の増加などにより、戦争への意識が薄れつつありますが、私たちは二度とあの悲惨な戦争を繰り返さないためにも、戦没船員への慰霊、顕彰事業の重要さを広く国民に伝えなければならぬと痛感する次第であります。

当会の事業運営は、厳しさを増しておりますが、関係団体や皆さまのご理解とご協力を賜りながら、戦没船員・殉職船員への思いを絶やすことなく、事業を続ける所存でございます。

皆さま方におかれましては、本年も旧年に変わらぬご支援ご協力を賜りますよう、お願い申し上げます、新年のご挨拶とさせていただきます。

## 終戦記念日献花式

元号が平成から令和になって初めての終戦記念日献花式が8月15日（木）、連日の猛暑が続くなか神奈川県立観音崎公園「戦没船員の碑」（横須賀市）で、工藤泰三会長はじめご遺族、前職および現職役員ならびに評議員、海事関係者ら40人が参列し挙行された。

献花式は例年どおり日本武道館で行われた政府主催の全国戦没者追悼式の進行に合わせて執り行われた。

東京湾口を望む慰霊碑に供花し黙とうを捧げ、戦没船員・殉職船員の御霊の鎮魂と安らかなることを祈るとともに海洋永久の平和を誓った。



# 戦時徴用船遭難の記録画展 越谷で開催

## 戦時徴用船の最期 大久保一郎 遺作展



越谷コミュニティセンター（サンシティ）

元号が令和になって初めての第45回「戦時徴用船の最期 大久保一郎遺作展」を、8月8日から8月13日まで、埼玉県越谷市の「越谷コミュニティセンター（サンシティホール）」で開催した。

会期中、ご遺族や市民、約450人が来場し、壮絶悲惨な戦没船と船員の記録画を熱心に見入っていた。

埼玉県内での戦時徴用船遭難の記録画展は、今回が初めての開催。

戦時徴用船遭難の記録画展は、これまでと同様に貴重な記録画を通して、ご遺族はじめ多くの市民の皆様

に戦時徴用船乗組員の悲惨な実相をお伝えし、戦争の悲惨さを実感していただくとともに、平和の尊さを再認識してもらうことを目的に、日本殉職船員顕彰会が全国を巡回して開催している。

先の大戦で、兵隊や武器・弾薬などの軍需物資と資源などの輸入物資を運ぶため民間の船と船員のすべては「戦時海運管理令」によって、陸軍、海軍、船舶運営会のいずれかの管理のもとに戦時徴用された。殆どの民間の商船は、丸腰（非武装）で満足な護衛もつかない海上輸送に従事したが、敵潜水艦の魚雷の絶好な標的となつて、海運・水産で働く6万余人の船員が犠牲となるとともに、商船や機帆船、漁船等約7200隻・880万総トンを超える船舶が失われた。

大阪商船の嘱託画家、大久保一郎画伯は、戦況の劣勢で社船が次々に

撃沈されていった昭和17年（1942）、社長から「失われていく社船を記録に残してほしい」と指示を受け、戦時統制下の厳しい状況おして、生還した船員たちから、沈没する船の様子、船員の遭難状況など戦場の生々しい証言を克明に聞きとって、忠実に記録画を密かに書き残した。

大久保画伯が描いた30号の記録画は、終戦直後のかん口令や復興の混乱の中で行方不明になっていたが、昭和57年（1982）に発見され、これを修復し37点の記録画を公開することとなり、昭和57年（1982）12月、東京日本橋の三越本店で第1回記録画展を開催した。

以来、北海道から沖縄まで、今回で30カ所・45回目の開催となった。

### 450人が来場

多くの来場者を迎えるため、顕彰会のホームページでの周知と海事関係団体の広報誌、業界紙などに開催案内を掲載していただくとともに、各行政機関、海事関係団体、マスコミ、美術・博物館や越谷市近隣の中学校、高等学校、公民館、図書館などにポスターの掲示、リーフレットの配布依頼など、周知・広報活動を幅広く行った。

会期中、連日の猛暑にもかかわらず、ご遺族の方々をはじめ近隣の一般市民や遠方からも、約450人が来場した。



大阪商船貨物船「ありぞな丸」宣伝用絵葉書の原画を前に、昭和31年（1956） 67歳

### 大久保一郎画伯（1889—1976）

- 明治22年 大阪市富島町（現在の西区川口）で生まれる。
- 大正15年 大阪商船（現株商船三井）の嘱託画家に採用、初仕事に南米移民船「らぶらた丸」を描く。以後、同社の宣伝用絵葉書、航路案内、広報誌、ポスターの絵とデザインを担当する。
- 昭和17年 大阪商船、岡田永太郎社長の命により、同社の戦時徴用船最期の記録画を描き始め、終戦までに油彩30号約80点を制作する。
- 昭和51年 1月19日自宅にて死去、享年86歳。
- 昭和57年 旧大阪商船本社倉庫で大久保画伯の遺作37点が発見され、絵画修復家黒江光彦氏により修復。12月に東京日本橋・三越本店で第1回記録画展を開催。6日間の来場者は9000人。

# 記録画から受けた感動・感想

来場者のうち 150 人の方々からアンケートとともに記録画から受けた感想が寄せられた。

記録画展来場の動機として、最近の傾向はスマートフォン等の普及によって、インターネットを介したソーシャル・ネットワーキング・サービス（SNS）のフェイスブックやツイッター等を閲覧して、記録画展の開催を知り来場したという方々が増えている。

その中から、来場の動機と感想の一部を紹介します。



## 10代の驚き

### ■女性（越谷市）学校の推奨で

絵に迫力があり、当時の背景がしっかり想像でき感動しながら鑑賞できました。

戦争の悲惨さを絵画が物語って二度と起こってはいけないことを現代に語り続ける絵画でした。微用船に乗る人の表情を描かなくても、海の波、燃える炎、傾く船など一つ一つの細やかなタッチにより乗組員の表情を想像でき、こだわりあふれる遺作に心打たれました。

学校で学ぶ戦争の出来事は、陸や空の事を詳しく学ぶけど、海の事までを学べなかつたので、良い経験になりました。

### ■女性（越谷市）学校の推奨で

迫力があり、感動させられました。私は10代なので戦争を経験したことがないので、この様な絵で学べるものがとても多かったです。なかなか戦争の絵を見ることがないので、今回無料で見ることができ、良い経験になりました。

戦争はしてはいけないと強く思いました。未来でも決して戦争が起これらぬよう、未来の子たちにも伝えていかなければならないと思いました。



戦争は誰も幸せにしないので、皆仲良くして欲しいと思いました。絵でしか伝わらない悲しさや温かさなど、作者の心が良く伝わってきました。今回はこのような展覧会を開いていただきありがとうございます。

## 20代の学び

### ■男性（東京都）SNSから

絵画を見てとても勇壮だという印象を受けました。それが戦時中の日本が持たされるように強要された幻想だったのかも知れません。

私の世代は戦争はいけない事だと教わりましたが、戦時中の日本はこの勇壮を胸に懸命に生きていたという現実を認知しなければ、本当の意味で過去に向きあうことはできない

のだと感じました。そうした姿勢を貫いたうえで私たち若い世代は未来というものの慎重に歩みを進めていくことが、戦争で犠牲になった方々へのせめてもの鎮魂になればと考える次第です。貴重な体験が出来ました。ありがとうございます。

### ■男性（埼玉県）知人に聞いて

海事系大学の出身ですので、戦時徴用船や大久保画伯についての知識は多少あったものの作品を見る機会はありませんでした。今回、足を運んで作品の前に立って見ると、当時の現場の慌ただしい様子や悲壮感を、実際にその場で体験しているようでした。

私は外航船の航海士として勤務した経験はありますが、魚雷や空爆を恐れることもなく仕事をこなすことができたのは非常に恵まれていたのだなど、しみじみと思います。

戦争による悲しい過去を未来につないでいくのは、後世を生きる人々に対する私たちの義務であると、画伯は教えてくれました。

## 30代の印象

### ■男性（越谷市）会場で

戦争の恐ろしさが凄く伝わってきます。私は戦争を知らない年代ですが、絶対に忘れてはならないことだと思えます。今後も平和な世の中が続くことを祈ります。



展が近県で開かれていると知った。トンベースで88%の船が沈んだことを伝えていく為に、今後もこの活動を続けてほしい。

■女性（埼玉県）顕彰会の案内で  
船が好きであり、仕事で物流と密接な関わりを持っているため来ずにはいられませんでした。

画集や絵を間近で見ると、亡くなられた方々の無念を思います。また関東で機会があれば伺います。

40代の感想

■男性（埼玉県）三友新聞を見て

祖父が海軍軍人だったこともあり、小さい頃から海に思い入れがあった。船舶関係の仕事にはつかず、食品メーカーに勤務しているが、今も模型を趣味とし、主に軍艦を制作している。

戦時徴用船という言葉は以前から知っており、戦時中多くの船員の方々が酷い目にあってきたことも知っていた。今回、本企画展示の話聞き足を運んだが、とても印象に残った。海を題材にした絵画は数多く見えてきたが、今回目にした大久保画伯の海は暗く悲惨さを訴えかけるものであった。

今回頂いた配布資料を読んで6万人の戦没船員の内、3分の1もの人命が未成年だったことがショックであった。今回頂いた資料はとてもよ

くまとめしており大切に保管したいと思う。ありがとうございます。

■男性（川口市）ツイッター

夫婦で来ました。その船がなんという名で、何トンで、何を積んでどこからどこに向かっている、何月何日何時、どのへんで何のために沈んだのか、そこは詳しく解説されていましたが、大野船長とはどんな人物で、なぜ万歳を叫んで船と運命を共にしたのか？関西丸に別れを告げている乗組員は誰なのか？米兵を救助したのは北陸丸の誰なのか？龍興丸の吉田事務長はどんな人で、その後どうなったのか？乗組員に救助された少女はどの誰でどうなったのか？きつと絵が描かれた当時は残っていただろう記憶が知りたいです。

■男性（東京都）ツイッター

思いのほか「船名不詳」の作品が多く、恐らく聞き取りしただであろう画伯の記憶とともに時が失われたことは残念に思います。

年少の船員の犠牲者が多かった背景がわかるような展示があるとありがたかったです。

■男性（東京都）

友人・知人・家族に聞いて

大久保一郎遺作展は以前から気になっていました。記録画だけでもネットで見られたら良いのと思っていましたが、実際に実物を観て圧倒されました。これは実物でなければ

「体感」できない！

大きな油絵作品の中に、大洋の重たい海と犠牲になられた民間の船員たちの存在を非常に近くに感じることにになりました。

平時の徹底的な外交の努力を怠った時に失われるものの大きさを、島国のリスクとともに今一度、真剣に考えさせられる展示でした。ありがとうございました。

■男性（調布市）ツイッター

軍人の働きの下で、船員の皆様のままに水面下での働きをこうして絵画で往時の姿を偲ぶことができ、非常に良き作品をみる事が出来ました。ありがとうございます。

日本のために殉じられた船員の皆様に感謝と哀悼を。



■女性(越谷市) 会場で

戦後74年、当時のことを知っている人が減ってきている中、どのように戦争を伝えていくのか、新しい局面を迎えていると思う。  
海外ではたくさんさんの残留日本兵の墓を見る。何のための戦いだっただか…。

今日、生かされている命の重みを感じながら絵画を観させてもらった。

■女性(埼玉県) 三友新聞を見て

このような絵を描いた人の情熱もさることながら、それらを復元し展覧会を開き、かつ継続するのは大変な苦勞と思います。

平和が求められるなか敬意を表します。  
敗戦の具体的な記録はあまり明らか



かにされませんが(原爆は脚光を浴びますが)、日本は海洋国家であり、造船技術の高さも含めて後世へ伝えるべきと思います。

■男性(埼玉県) ポスター(公民館)

多くの方の犠牲のもと今の平和があることを実感致しました。戦時中の船に関する知識を得られ大変有意義な展覧会だと思いました。

■女性(大阪府) ツイッターで

子供が航海士をめざし商船高専へ進学した。このようことは経験して欲しくない。  
大阪商船の岡田社長と大久保さんが残してくださった作品の実物を初めて見たが、インターネット上の閲覧でさえ涙が込み上げてくるのに…。今日はゆっくりかみしめるよう、見学させていただきました。

■男性(東京都) ツイッターで

戦時徴用船は、存在は知っていましたが実態は知らず、もっと限定的になされた運用かと想像していました。

旧軍の人命軽視は様々な場で批判されていますが、本来戦に不可欠のはずの民間船がかくも安易に戦地に送られ沈められたことを思うと、その意思決定の非合理性に悲しみを覚えます。

■男性(埼玉県吉川市) 会場で

戦争の裏側である民間船の犠牲が多くあったことを知る事が出来て良かった。この活動が原爆や東京大空



ポルティコホール入口

襲と同じように一般に広く知れ渡る活動になるよう希望します。

50代の想い

■男性(埼玉県) ポスター(勤務先)

5年前の神戸に続いての二度目となりますが、前回は展示(写真)のなかったものも含めてすべての作品が見えてきて大変勉強になりました。私自身も海上の輸送業に携わっています。海に囲まれた日本において、輸送を滞りなく行い、一定の役割を果たすことが出来ているのも、偏に平和な海があつてこそ思いを新たにします。

最近でも本邦近海における隣国との緊張やペルシヤ湾における非常事

態など安全が脅かされる状況ではありませんが、今こそ、このような歴史を広く皆様に知ってほしいと思います。

■女性(越谷市) 顕彰会のHPで

とてもすばらしい展示会で感動しました。画集・戦時徴用船の最期を持つておりまして、5月に横須賀の慰霊祭にも参加いたしました。その折にこの展示会を知り楽しみに待っておりました。

私の祖父は日本郵船の徴用船「淡路丸」で命を落としました。昭和19年のことです。本当にいたわしく悲しい戦争の歴史です。  
上皇皇后陛下下も慰霊して下さい、少しでもこの犠牲が今世に伝わるよう願っています。戦争は二度と起こしてほしくありません。





戦没船を記録する会の  
本望隆司さん(左)と栗原三郎さん(右)

■女性(埼玉県) 友人に聞いて

海上での戦争を絵画にて知る事が出来ました。悲惨な状況であった事、衝撃を受けました。今になってはなかなか目にふれる事が出来ないのですが、こういった展示を続けていき戦争を忘れない様にすることが大事だと感じました。

60代の憤り

■女性(埼玉県)

友人、知人、家族に聞いて

「大久保一郎遺作展」のお話を伺い、見せて頂きました。

太平洋戦争中において6万余人の船員の方々が命を落としていた事を初めて知りました。核だけではなく悲惨な現実を目に向け、二度とこの

様な戦争が起きないように、戦後生まれの私たちが声をあげていかなければと実感しました。

戦時徴用船のことも絵とともに叫びが聞こえてくるようでした。

すばらしい企画本当にありがとうございます。

■男性(草加市)

ポスター(平和祈念展示資料館)

平和祈念展示資料館でポスターを見て、大久保さんを初めて知りました。越谷で遺作展があるので是非見たいと思いましたが、すばらしい力で感動しました。またどこかで再会できれば。

私の父はシベリア帰りですが、良く話を聞かなかったもので、何も聞かなかったのが残念です。父も話しませんでした。

■男性(越谷市)

会場前で看板を見て

以前、どこかのテレビ番組で大久保画伯の作品を取り上げたドキュメンタリー番組を見て感動しました。

本日はたまたまポルティコホールに立ち寄った所、画伯の本物の作品が見られて大変感動しました。

油絵としても素晴らしい作品ばかりですね。実感がこもっており迫真の船のすばらしさに感動しました。船に限らずどんなものでもそれを作る行為は大変な知恵と労力と時間とがいるでしょう。しかしそれが破

壊されるのは一瞬です。もちろん人間もですね。

戦争は最低で愚かな所業です。いつかプロ野球の阪神の江本選手が上層部の判断を批判し「ベンチがアホやから」という有名な発言をしましたが国民の生命、財産、幸福を預かる政治のリーダーがアホだとんでもないことになりますね。

彼らの責任は重大です。

■男性(千葉県) 友人に聞いて

陸海軍人の死亡率をはるかに上回る6万人以上もの船員が犠牲になったことを知らない日本人が多すぎる。平和ボケ状態の昨今とても意義のある遺作展であると思う。

大久保画伯も記録を命じた岡田社長の名と共に記憶に残しておきたい。

■男性(越谷市) 会場で

作品を見て、その時代に大変苦しい戦争があり、そのほとんどの方が亡くなり、残った家族などが、悲しいことになり、この作品から平和を続けて行かなくてはならないということが、大切だと思えます。

■女性(越谷市)

会場を通りかかって

伯父がテイネ島で戦死。祖母の悲しみを覚えています。

毎年この時に平和を願い、戦時の話に耳を傾けるようにしています。

戦時徴用船についてのお話は初めて知り、見せて頂きました。絵に描かれている方々、ひとりひ

70代の怒り

■男性(越谷市) 友人に聞いて

陸上戦争についてはよく見聞きするが海上戦争及び徴用船については接する機会がなく友人から電話があり見る時間がとれた事に感謝する。一時期戦争物の読書に夢中になったが二度とこの様な悲劇がおこらない事を祈る。

戦争を知らない世代に是非教育の場にて平和のありがたさを認識させてほしい。



田中善治さん(右)と友人の皆さん



わだつみのこえ記念館、前理事長の岡安さん(右)

■女性(東京都)

■顕彰会の案内で(戦没船員遺族)

本日、こちらに伺ってほんとうに良かったと思えました。70歳も過ぎていますが、顔もわからない父が恋しいです。これからは戦争などないように祈るばかりです。

■男性(東京都) 友人に聞いて

戦時の折はまだ0歳児でした。それが当年75歳の後期高齢者となりました。

この悲劇を我々世代がしっかり認識し後世に伝える義務を負っており、戦後生まれの政治家が国家を運営する時代です。何の疑問も反省もないまま国の指針を定めて貰いたくないと思っています。

戦時下とは言え、時代の犠牲となつた民間人、一般国民の声なき声を

知らしめることは、今日非常に大切なことではないかと思う。広島、長崎の原爆、東京大空襲に留まることなく、草の根運動としてもっと広く連携し、一般市民運動として展開する必要を感じます。

単なるマスコミ依存ではなく、それぞれ別の団体(徴用船の悲劇以外の団体も含め)相互につながりを強める事ではないかと思ひます。

■女性(越谷市) 友人に聞いて

戦時の悲惨さを目の当たりにして風化させてはいけなないと、あらためて感じました。

唯一被爆国として日本の果たさなくてはならない使命を自覚しなくてはならないと実感しました。今回展示されている一枚一枚から当時の軍人、乗組員の筆舌に尽くせぬ命がけの戦いに涙が出ます。

平和国、日本の役割を考えさせられました。

■男性(越谷市) 会場で

民間人の戦死は聞いていたが、こんなに多くの船と船員が犠牲になったことを知り悲しみの限りです。現在の日本は、こうした人々の命の上にあることを心して生きなければならぬと感じます。また大久保画伯の力量に驚き、こうした作家がもっと知られることを心から望みます。

■女性(埼玉県) 会場で

戦時中の徴用船については全く知識がありませんでした。民間の船舶



がこの様に徴用されていたことを知り、また貴重な絵画が遺されていたことに驚愕と同時に戦時のむごさを思い知らされます。通常の報道では知り得ない貴重な機会でした。

ありがとうございます。

■男性(所沢市) 友人に聞いて

今まで全て知らない歴史的事実を知ることが出来ました。米国とは様々な関係があるが、大東亜戦争における原爆投下、沖縄、東京などの大空襲に匹敵する米国の本質を、この大久保画伯の力作で知らされ、あらためて驚かされました。

平和の大切さ、隣接各国との関係、横田空域に代表される戦後の日米関係など、多くのことを考えさせられました。貴重な史実に基づいた絵画展に深くお礼申し上げます。

■男性(埼玉県)

■友人、知人から聞いて

戦没船員の内、3割に当たる19048名の未成年者がいたことに驚きを感じました。特に14歳という少年987名はどういう理由で乗船していたのか興味を抱きました。争いというものは当事者のみならず、周りの人達をも巻き込んで悲惨な結果を招くということであらためて認識しました。

■男性(東京都目黒区)

■顕彰会の案内で(戦没船員遺族)

私が生まれる前に亡くなったおじで一面識も有りませんが、父や父の弟が常日頃気に掛けており、この様な機会を頂き感謝します。父も父の下のおじもさぞ感謝していると思います。



80代の嘆き

■男性（東京都） 知人から聞いて

小生、旧大阪商船の陸上社員にて昭和16年台湾から大阪商船の船で日本へ帰還。我々の先輩諸氏が太平洋戦争で多数犠牲になり、特に無防備の商船、病院船までが攻撃を受け、沈没させられたこと、誠に無念、残念なこと。

戦争のむなしさ！当時の政府、軍部の指導者たちの判断のミス、二度と繰り返してはならず！また忘れてはならないことでしょう。

■男性（千葉県）

■顕彰会の案内（戦没船員遺族）

首都圏での開催を待ち望んでいたので非常にありがたい案内でした。



あの画伯の魂のこもった画を見て悲運の中で戦死していった肉親の最期の状況を想像できた総てでした。

改めて安らかに眠れと心に祈ることが出来ました。二度とこのような無謀な戦争を起こしてはならぬと強く心する次第です。

■男性（武蔵野市）

■新聞を見て（日経）

素晴らしい企画で充分満足しました。貨客船が戦争により想定外の被害に遭った悲しい事実を想い心打たれました。

私個人は海運業にいた為、この展示にあつた様な事実は承知していますが、一般の方々にご覧頂ける機会をつくって頂いた今回の企画に感謝します。

■女性（越谷市） 顕彰会の案内で

とても良かったと言ってしようと胸が痛みます。父の最期を想像して悲しくなります。敗戦は火を見るよりも明らか、それでも乗船したのです。安易に9条を変えて貰いたくありません。

■男性（埼玉県） 顕彰会の案内で

過去にも拝見して印象に強いものが記憶に強く残ります。

兄が内地送還途中、バラオから横浜に向かう途中、1944年5月バラオ沖に乗っていた阿蘇山丸が雷撃を受け死亡しました。その状況についていろいろ教えて頂きありがとうございました。

9/28~10/4

入場無料

栃木県宇都宮市で開催

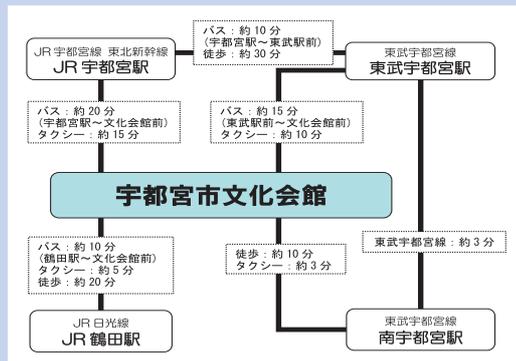
宇都宮市文化会館 1・2 展示室

知られざる民間船舶の悲劇  
第46回 戦時徴用船遭難の記録画展  
大久保一郎画伯遺作



魚雷攻撃により棒立ちとなって沈没する「ぶら志丸」

- 会期 令和2年9月28日(月)から10月4日(日)まで
- 開館時間は、10時00分から18時00分まで
- 初日の9月28日(月)は、13時00分開場。
- 最終日の10月4日(日)は17時00分に終了。
- 会場 宇都宮市文化会館 第1・2展示室
- 主催 (公財) 日本殉職船員顕彰会



## 戦時徴用船の記録画展を お手伝いして…

元船長 田中 善治



越谷市の記録画展で

平成から令和に改元されて初めての夏、8月8日から13日までの6日間、埼玉県越谷市、越谷コミュニティセンター（サンシティホール）で開催された第45回記録画展を、3日間だけお手伝いをさせていただいた。

私の役割は展示絵画及び会場全体の保安管理と、入場者への尚一層のご理解の手助けのために多少の説明をさせていただくことでした。実は、昨年夏の第44回の同展は私の出身地山形市の中心に位置する山形県芸文美術館で開催され、同じようにお手伝いをさせていただいた経験を踏まえてのものだった。

山形市は日本海と太平洋のほぼ中間に位置し、日常海事関係を意識することがない土地柄での開催を危惧したが、9日間の開催期間中600

名の入場者があった。今夏の越谷展は6日間で450名だった。

一人でも多くの方に観ていただきたいとの思いからマスクは勿論、ポスター・パンフの配布、顕彰会のホームページ、友人・知人にお願ひしたりして、できる限りの手段で宣してはいるが思うように入場者が伸びない。その理由として、そもそも「徴用船」という概念が、大掴みに、戦後生まれの方々にはほとんど理解されていまいというのと、「船」或いは「戦争」は自分とは関係ないものと決めつけている方が多いように思う。従って、関心を持たれていない方は説明書を読みながらゆっくり観賞されているのに対し、無関心派は一瞥して過ぎ去る。勿論、本記録画展に限らず、あらゆる展示会で見られる傾向であることは承知しているが…。

無関心と思われる方の中でも、あの絵の前で一寸でも足を止められる方があればそっと近付き「ご覧になっていかがですか？」と声をかけた。これを無視するか、あまり反応を示さないと更に「ここに描かれていることは全て事実なんですよ」と付け加えた。この一言に「うん？」と頷かれる方が多かった。写真や映像は事実を写し取るもので誰でも納得するが、絵画は作者の感性・感情が大きく左右する美術品という思いがあるのだろう。そこに敢えて「これは

全て事実で、描かれた当時は人物の名前も分かっていたんです」と言われると「本当？」と疑いながらも関心を持たれるようであった。そこで特に感動的な場面や、描かれている人物がごなたなのかはつきりしている絵を紹介し、一言説明するとほとんどの方がジーッと聞き入り、そして質問をして来るのだった。

真夏の開催だったので夏用簡易服を着用した。この服装を見て話しかけてこられる方のはほとんどは元軍人のご遺族か、身内に元軍人がおられる方であった。この方々は絵画そのもののことで、戦後復員された身内から聞かれた数々のエピソードを話された。頃合いを計って、描かれている内容をお話ししてみるが、それはそれとしてすぐに軍人の苦労話に戻るのだった。展示されている絵画は軍人とは無関係のものばかりであることと説明しても無駄だった。

この絵画展ではアンケート用紙をお配りしている。回収率は先述の土地柄のせいかな山形展29%に対し、越谷展44%だった。両展併せて3百余枚の回答を概観してみるとナンバードワンは「戦争は絶対にやってはいけない」というもので、この一言だけでも記録画展開催の大いなる意義を感得するのは私だけではないと思う。その次が「大久保画伯の絵の迫力と、描くよう指示した岡田社長を賞賛する」声、それに「これ等の絵

は是非若い世代に観て欲しい」というものである。更にこれ等の声から「勇敢な船員のこの悲惨な犠牲の上に今の私たちの生活があることを決して忘れてはならない」が導かれるのであろう。

他に「常設展を望む」「この記録・偉業を後世に残すべし」「他の団体とのコラボでもっと大々的に開催せよ」「全国的に開催せよ」「開催関係者に感謝する」等々である。

70歳代の複数の男性の意見に「この展示を世界に広げて行ってもらいたい」「米国で展示されることを望む」というのがあった。

大久保画伯が密室で生還者から聞き取りで描いたといわれる、即ち、画伯の意志抜きで描いた80数枚のうち、辛うじて残った37枚。しかも連戦連勝の大本営発表とは真逆の「負け戦」の絵である。

世界規模でも稀有な存在ではないかと思う。戦争の理不尽さと、殺戮の蛮行を記録したものととして、ユネスコの「世界の記憶（録）遺産」の価値と資格があると思うが…。

### 【参考】

「徴用」：国家権力により国民を強制的に動員し、一定の業務に従事させること。

岩波書店 「広辞苑」より抜粋

（令和元年10月17日 記）

# 海の日清掃・献花式

## 横須賀海洋少年団

観音崎公園 戦没船員の碑



清掃後の記念撮影

昨年7月21日、横須賀海洋少年団「海の日」行事として恒例の「戦没船員の碑」清掃と献花式が行われた。近年の海の日清掃は、真夏を思わせる青い空が広がる中で行われることが多かったが、今年ほとんど曇り空の下、例年よりは気温が低く感じられる中で行うこととなった。とはいえ、湿度が高く熱中症の危険性があるので、指導員の「適切な水分補給を行い、熱中症にはくれぐれも注意すること。また、蜂やマムシが出るという情報もあるので、清掃中危険なことや何か気が付いたことがあったら周りや情報共有を積極的にすること」という指示のもと

10時ごろから清掃を開始した。今年も、団員は中学1年生1名と中学2年生2名の計3名、他に保護者が多数参加した。

例年のことだが、清掃を始めるとやはり気になるのが、御成りの碑付近のスロープである。スロープ周りには木が生い茂り、木陰になっていてじめじめしている、落ち葉がぐっしょりと湿りやすいので、落ち葉がくっついていて、掃除が難しい。団員は「追悼式に参列するのはお年寄りが多いと聞いていたので、スロープを使う人も多いと思う。そのスロープがすべりやすいのでは本末転倒だ。」と重点的に清掃していた。



歩く人のことを考えて丁寧に清掃

御成りの碑周辺は、舗装されておらず海の日清掃の時期には雑草が勢いよく伸びている。この海の日清掃では安全性に考慮して、草刈り用の鎌を使っているのは中学生からと決めている。もう中学生だからと決めるのは鎌が使えるなかった1年生の井場君も加わり、3人も上手に草刈りを行っていた。「また来年の追悼式までには、草がボーボーになっているに違いない。焼け石に水。豆腐に鏝、糠に釘」などと軽口をたたきながら「一瞬でもきれいなれば、きちが喜んでくれるだろうから。また来年掃除しよう。受験生だけど、来る余裕あるかな。」と真剣なまなざしで思いを馳せていた。



黙とうの様子



中学生には鎌だってお手の物



ゴミもどっさり集まりました

間ほど集中して清掃を終わらせた。辺りがすっかり清められると、「安らかにねむれ わが友よ 波静かなれ とこしえに」と刻まれた碑文石に全員で黙とうを捧げ、一人ずつ白菊を献花した。

### 参加した団員の声

■井場 大翔くん



中学生になりました。海の日清掃には、もう何回も参加していますが、今年は人数が少なくてさみしいです。どうしても、習い事があつたり部活があつたりと参加できない人もいます。小学生の団員がどんどん減っているのが心配ではありますが、高校生でも参加できるときは来て下さる先輩もいるので、自分もできる限り続けようと思っています。

■長島 聖英くん



いつもは自分たちより年少の団員に指示を出したりと清掃以外にも気を配らなくちゃいけないことがあるので、てんやわんやですが今日は、中学生だけなのでじっくり清掃に取り組みることが出来ました。来年は受験生です。今まで通りに参加できるかは見当が付きません。でも夏と言ったらこの清掃と思っているので来年も参加したいです。

■長島 崇瑛くん



ママシが出てると聞いてびっくりしました。出るとはわかっていても気になるのも気になります。指導はやっぱり落ち葉や雑草です。指導員の先生に言われた通り、報連相を大事にして自分が気になるところを清掃しました。活動は楽しいと思うことも、つらいと思うこともありませんが、貴重な経験だと思っています。団員が増えればいいのと思うのですが、なかなか難しいです。きれいになったので今日できることはしました。



掃除後に挨拶をする岡本永興常務理事

ご協力  
ありがとうございました

横須賀海洋少年団の「海の日」清掃活動に参加した団員の皆さんに、感謝の記念品を今回もたくさんご提供いただきました。子供たちは大喜びで「ありがとうございます」と声高らかにお礼を述べていました。ご提供いただいた会社、海事団体は次のとおりです。

日本郵船・商船三井・川崎汽船・日本船主協会・大日本水産会・日本内航海運組合総連合会・日本海事広報協会・日本水路協会・日本中小型造船工業会・海技教育財団・全日本海員組合・全日本海員福祉センター！  
日本船員厚生協会。（順不同）



提供されたグッズの中身が気になります

### 殉職船員 遺族援護について

当会では外航船・内航船・旅客船・港湾船等の船員として就労中、海難など職務上の事故により死亡した船員のお子さんに対し給付金を支給しています。

船員が死亡した日に、船員の収入により生計を維持していたゼロ歳児から高等学校卒業までのお子さんが対象となります。

詳細については、当会事務局までお問い合わせください。  
(電話 03-3234-0662)

### ご遺族からのお便り

殉職船員ご遺族の方々からのお便りを紹介します。

■織田幸恵さん (広島県)

お世話になっております。有瑠が12歳の誕生日を迎えました。友だちと遊ぶのが大好きでスポーツ少年団のソフトボールも大好きです。元気にのびのびと成長してくれて感謝です。

■佐藤亜希さん (青森県)

いつもありがとうございます。お米をといだりと、毎日お手伝いをしてくれるようになり頼もしいです。

# 皆様のご厚情に感謝申し上げます

令和元年7月1日以降、令和元年11月30日までの間に、次の方に新たに賛助会員として加入いただきました。

また、次の皆様からご寄付をいただきました。厚く御礼申し上げます。

本会の事業運営は、基本財産の運用益のほか、会員からの会費や寄付金、海運・水産・旅客船などの会社および海事関係団体からの会費や補助金などで、戦没・殉職船員の慰霊・顕彰とご遺族への援護事業を支えています。

会員制度には、賛助会員と協賛会員があります。

■賛助会員には、「法人」と「個人」があり、年会費は○法人賛助会費110万円、◎個人賛助会費110万円をお願いしています。

■協賛会員は「個人」にお願いしているもので、年会費は103千円です。

当会は、税制上の優遇制度による税額控除の対象法人です。  
 下記のとおり、当会への寄付金（賛助・協賛会費、献花料等）は、確定申告を行うことにより、「所得控除」「税額控除」の対象となり税金の還付が受けられます。

## 新たな賛助会員

○江面 弘様（神奈川県川崎市）

## 遺族援護寄付金（順不同）

○河合八ル子様（横浜市）  
 ○齋藤 延子様（埼玉県上尾市）

## 終戦記念日献花式供花料（順不同）

○日本内航海運組合総連合会様（東京都千代田区）  
 ○中野 彪様（横浜市）  
 ○多胡 明美様（東京都小金井市）

## 追悼式献花料

○河合八ル子様（横浜市）

## 戦時徴用船の最期 大久保一郎遺作展寄付金（順不同）

○村松 美那様（埼玉県桶川市）  
 ○橘川 正道様（さいたま市）  
 ○和田 靱彦様（さいたま市）  
 ○奥平 安子様（東京都中央区）  
 ○高城 里恵様（東京都調布市）  
 ○福島寿々江様（大阪府堺市）  
 ○松見 準様（東京都墨田区）  
 ○本望 隆司様（さいたま市）

# 寄付金に対する

# 税制上の優遇措置について（お知らせ）

当会は、平成23年4月1日に「公益財団法人」に認定されたことにより特定公益増進法人に該当することになりました。さらに、平成23年10月27日（平成28年10月17日更新）に「税額控除対象法人」の証明を受けたことから、当会に対する寄付金は、税制上の優遇制度が認められ、確定申告を行うことにより、「所得控除」もしくは「税額控除」が受けられます。なお、ここでいう寄付金は、賛助会費・協賛会費・追悼式の献花料・終戦記念日の献花料および寄付金をさします。

所得税の軽減につながるためぜひご利用ください。

「所得控除」「税額控除」を受ける際には、当会が発行する「領収証」「公益認定書（写）」「税額控除に係る証明書（写）」が必要になります。

例年11月にお送りしていますので大切に保管してください。

## ①個人の方の寄付の場合

### 「所得控除」

所得税率が高い高所得者の方は減税効果が大きくなります。

寄付金額

-2千円=

所得控除額

上限は年間所得の40%

### 「税額控除」

小口の寄付にも減税効果が大きくなります。

寄付金額-2千円

×40%=

税額控除額

上限は年間所得の40%

上限は所得税額の25%

「所得控除」と「税額控除」については、寄付者の所得額や寄付金額によって、選択する控除方法により控除額が変わります。詳しくは確定申告の際に税務署にお尋ねください。

## ②法人（民間企業等）の寄付の場合

一般の寄付金の損金算入限度額とは別枠で、損金算入ができません。詳しくは、税務署、税理士にお問い合わせください。